

ネイティブ・サーモトガ・ネオポリタナ β-グルコシダーゼ

Cat. No. NATE-0771

Lot. No. (See product label)

はじめに

[明 β-グルコシダーゼは、小腸のブラシボーダーに位置するグルコシダーゼ酵素で、**2**つのグル

コースまたはグルコース置換分子(すなわち、二糖類セロビオース)を結ぶ β 1->4結合に作用します。これは、セルロースおよび関連する多糖類の分解に関与する酵素であるセルラーゼの一種であり、より具体的には、さまざまなベータ-D-グリコシド基質に特異性を持つエクソセルラーゼです。これは、ベータ-D-グルコシドにおける末端の非還元残基の加水分解を触媒

し、グルコースを放出します。

用途 酵素は、さまざまなグリコシド、例えば、さまざまな野菜に見られる天然の抗酸化物質である

ケルセチン-グリコシドを含むポリフェノールグリコシドの加水分解に使用される可能性があります。 $80^\circ C$ 、pH 5.5で5分間に $1\mu mol O$ ケルセチン-4-グリコシドを完全に加水分解するに

は、約28 pmol(約25 µg)の酵素が必要でした(Turner et al 2006)。

*別*名 β-グルコシダーゼ; グリコシド加水分解酵素; β-D-グルコシドグルコヒドロラーゼ; EC

3.2.1.6; f')'+'+'+'+'+''+''+''''+'''+'''+'''+'''+'''+'''+''''+''''+'''+''''+'''+'''+'''+'''+'''

コシダーゼ

製品情報

由来 サーモトガ・ネオポリタナ

EC番号 EC 3.2.1.6

*CAS*登□番号 62213-14-3

最適温度 酵素は約90°Cで最適な活性を持っています。

構造 Thermotoga neopolitana の β-グルコシダーゼの結晶構造は、2.05 Å の分解能で決定されま

した (Pozzo et al. 2010)。 - PDB エントリ 2X41

単位定義 酵素活性の1単位(U)は、p-nitrophenyl-β-D-glucanopyranoside (pNPG) から1μmolの

p-nitrophenylを1分あたりに放出させる量です。